

週刊センターニュース No.228



第228号(2008年10月7日)毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第201回共同学習会のご案内

日時：10月9日(木)15時～17時

通常の時間と異なりますので、ご注意下さいますよう宜しくお願い致します

会場：角間キャンパス総合教育1号館2階大会議室

発表者：西谷 公作 氏(事務局角間北地区事務部長)

テーマ：「金沢大学の学域・学類再編，特に管理運営の制度設計への注目度」

概要：本年の大学行政管理学会研究集会では，本学の3学域16学類再編構想に関する検討経緯，学域・学類再編の意義やカリキュラム，管理運営の制度等について報告した。特に，「学域」の学校教育法上の位置づけ，学域再編後の部局長と教育研究評議会の構成，教育研究組織の運営体制(教授会)，教育研究会議(研究域教授会)と研究域長，学域長，研究科長等の関係，従前の学部教授会，教員の所属と学域・学類，研究科の担当，教員の「雇用上限」(定員)の引継ぎ，等について重点的に報告し，質疑を通じて今後の課題も整理することができた。また，出席したワークショップやシンポジウムでも，興味深い話題に触れることができ，併せて報告したい。

他大学の初年次少人数セミナーの事例紹介

9月19, 20日、長崎大学において第57回九州地区大学一般教育研究協議会が行われた。基調講演「21世紀の学士課程教育の在り方 アウトカム重視の教育と教養教育」が神戸大学教育推進機構教授で中央教育審議会大学分科会専門委員の川嶋太津夫氏により行われたのち、人文・社会科学部会、自然科学部会など分野別部会に分かれて報告、議論が行われた。筆者は導入教育部会に参加したが、初年次少人数ゼミナールの九州大学と鹿児島大学の事例を聴くことができたので報告する。

九州大学では平成18年度に、全学教育新カリキュラムの実施に合わせて1年次前期全学生必須の「コアセミナー」が開設された。コアセミナーは、学部ごとにクラス編成され、当該学部の教員が担当する。今回は経済学部の教務委員長を務められた岩田健治先生により経済学部のコアセミナーでの取り組みについて報告があった。その特徴は、1年後期以降の専門の科目や基本ゼミに備えた大学における学習への適応を促すという初年次教育の目標とともに、コアセミナーの授業運営と結合させたきめ細かな修学指導と修学カルテに基づく教員間での情報共有にある。

1クラスの受講者は20名以下に抑えられている。また、担当教員については機械的なローテーションは行わず、経済学部教員から選抜し適材適所で配置するとのことであった。コアセミナー担当者懇談会を定期的に行き、テキスト・授業の進め方・成績評価・授業評価アンケート結果等につ

いて協議、反省点を取りまとめ、教授会で情報を共有している。

コアセミナーでの受講状況も踏まえた上で、コアセミナー終了後から後学期開始までの間に修学指導を行い、その結果は修学カルテに記載される。この修学カルテは専門でのゼミ担当者に引き継がれ、その後の修学指導に活用されるとのことであった。このような修学指導の効果は、平成19年度の経済学部1年次終了時点での取得単位数が少ない学生が平成17年度の場合と比較して大幅に減少したことを示すデータにより示され、問題を抱えた1年次学生を早期に発見する上で有効であると述べられた。

鹿児島大学の初年次少人数ゼミナール「教養セミナー」は、平成17年度から開設されている。このセミナーの立ち上げから関わり、授業実施責任者を務められる永吉秀夫先生からその詳細について報告があった。教養セミナーは全学必須科目ではないが、平成20年度は7クラス開講、総受講生は200名以上であり、各クラスの定員である30名を超過し受講できない学生が出るクラスもある。各クラスは学部混成の受講者からなり、クラスごとの単一のテーマのもとで7名程度のグループに分かれてグループごとに授業時間外での調査等の活動を行う。授業時間中はグループ間での議論等を行う。授業時間外の活動には e-learning システム「Moodle」も活用され、グループメンバー同士、教員と学生とのコミュニケーションを確保している。このセミナーの特徴といえるが現存のクラスは経験者と初心者とからなる2名の教員が担当する体制をとっている。教員が担当しやすくするための工夫である。永吉先生は、いかに授業担当教員を増やしていくかが問題であると述べられた。

本学もそうであるように、どの大学でも初年次教育のコアとして初年次少人数ゼミナールを重視し、試行錯誤を繰り返している。本学では今年度より全学類必須で実施されており、今後は授業方法等について学類内ばかりでなく全学での情報共有が重要と思われる。共通教育機構FD委員会企画され、11月4日(火)13時より自然科学大講義棟で開催される第11回金沢大学教養教育全学研究会「学域再編後の全学共通科目の実践と問題点～初学者ゼミ、大学・社会生活論および情報処理基礎の授業を通して～」は全学で情報共有し議論できる絶好の機会である。多くの教員の方々のご参加をお願いしたい。

(文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭)

センターメンバーの研究活動紹介

以下の冊子が完成し、センター図書室(総合教育1号館6階613号室)に所蔵されました。貸し出しもできますので、ご活用下さい。

- ・『資料集 聴覚障害学生支援システムができるまで 第2集』2008年8月29日、筑波技術大学、全57頁、編集グループメンバー(金澤貴之、青野透、岩田吉生、平尾智隆、松崎 丈、倉谷慶子、中島亜紀子、萩原彩子)

なお、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク発行『資料集 聴覚障害学生支援システムができるまで』2007年7月1日、筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター、全40頁、編集グループメンバー(金澤貴之、青野透、岩田吉生、倉谷慶子、原田美藤、平尾智隆) もセンター図書室に所蔵しておりますので、ご活用ください。

(文責：教育支援システム研究部門 青野 透)